

百年史制作よもやま話



# みらいにつなぐ 市大の歴史



2022, WINTER



シェイクスピアガーデン（1975年6月頃撮影）

現在総合研究教育棟がある場所には、かつて洋風の瀟洒な庭園がありました。学生はここで語らったり食事をしたり、憩いの場として愛されていました。部活の打ち上げなどでは、メンバーをこの庭の池に放りこむのも恒例行事だったようです。完成時期は不明ですが、少なくとも1961年の卒業アルバムでは、「シェイクスピアガーデン」の文字と写真が確認できます。総合研究教育棟建築のため、1984年頃に取り壊されました。

# Contents

## 3 市大の源流 ①

横浜商法学校から横浜市立大学へ

## 4 市大の源流 ②

仮病院から横浜市立大学医学部へ

## 6 市大の源流 ③

十全看護婦養成所から横浜市立大学へ

## 7 「横浜大学」争奪戦！

## 8 公立大学法人化と大学の変化



## 発刊のご挨拶

横浜市立大学は、2028年に創立100周年を迎えます。100年の間には、新学部設置や法人化、存続の危機など、さまざまなできごとがありました。こうした横浜市立大学の歩みを広く学内外のみなさんに知っていただき、ともに100周年へ思いを馳せるため、このリーフレットを刊行しました。本学創立の源泉から思わず誰かに話したくなるトピックまで、さまざまな歴史をご紹介します。ぜひ手に取ってご一読いただけますと幸いです。

横浜市立大学百年史編集委員会  
部会長

篠崎 一英



こちらの素材はデジタルアーカイブでご覧いただけます



通学風景

# 市大の源流 1

## 横浜商法学校から横浜市立大学へ

1882年、当時の有力な実業家28人を発起人として**横浜商法学校**（通称「**Y校**」）が設立されました。校名の変更などを経て**横浜市立横浜商業学校**となつたY校は、日本唯一の予科2年・

本科5年の7年制により、多くの優秀な学生を輩出しました。

Y校は、商業学校からさらに上の商業高等学校となることを目指します。しかし、1924年に国の指導により本科5年・専修科2年の7年制へと移行することになった結果、実質的な入学者のレベル低下を招き、以前よりも逆に評価が下がることとなってしまいました。

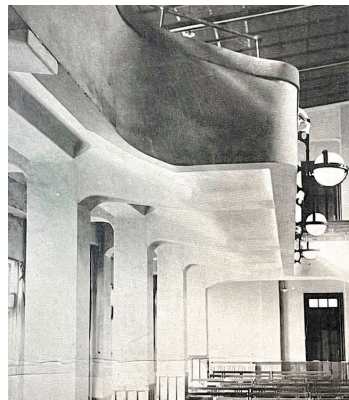
さらに、Y校に専修科が設置されたのと同じ年、横浜市内に**国立横浜高等商業学校**（今の**横浜国立大学経済学部**）が設立され、市内学生への高等教育が期待されましたが、実際には入学志願

者が全国から殺到し、市内学生の入学は難しい状況でした。

こうした状況を受け、市内出身者への高等教育実現のために、1928年に横浜市立商業学校の専修科を昇格させる形で**横浜市立横浜商業専門学校**（通称「**Y専**」）が設立されました。

Y校とY専は別々の学校になったものの、当初は校舎も共用、校長も兼務でした。しかし、当初両校の関係はあまり良いものではなく、また、Y校出身学生と他校出身学生の間でも敵対心があったことがさまざまな文献から確認できます。こうした雰囲気は、1932年のY校創立50周年祝賀会の成功により、徐々に解消されていったようです。

戦後、学制改革により、横浜市立横浜商業学校は**横浜市立横浜商業高等学校**に、横浜市立横浜



Y専の講堂

商業専門学校は横浜市立経済専門学校への改称を経て**横浜市立大学商学部**となりました。この、市大商学部の前身である横浜市立横浜商業専門学校が設立された1928年が、本学の創立年とされています。

### 参考文献

- ・横浜市立大学60年史編集委員会編『横浜市立大学六十年史』横浜市立大学創立60周年記念事業実行委員会、1991年
- ・藤田剛志、江藤武人編『横浜市立大学商学部創基百年史』財界評論新社、1982年
- ・齊藤毅憲著『Y専の歴史』横浜市立大学の源流『横浜市立大学学術研究会』春風社（制作・販売）、2021年
- ・一般社団法人進交会Webサイト「沿革」<http://www.shinkoukai-web.jp/pages/5/>（2022年4月28日閲覧）
- ・横浜市立横浜商業高等学校Webサイト「沿革」<https://www.wedu.city.yokohama.lg.jp/school/hst-y-shogyo/index.cfm/1,0,42,155.html>（2022年4月28日閲覧）



## 医師・シモンズの雇用

1873年、医師としてシモンズを雇用しました。その月給はなんと320円。当時の薬局係の月給が10円～15円だったことを考えると、破格の好待遇だったことが分かります。

当時の広告にも大々的に紹介され、看板医師として大きな期待が寄せられていたようです。



## Who is 早矢仕 有的??

医師・実業家であり、書店丸善の創始者。慶應義塾大学に入塾し、福沢諭吉に師事しました。

ハヤシライスの生みの親としても有名な人物です。

# 市大の源流

2

## 仮病院から横浜市立大学医学部へ

1871年 4月

### 横浜仮病院開院

当時、横浜に市民のための病院が一つもないことを遺憾とした早矢仕有的が、時の頭官を説き、現在の中区北仲通六丁目に**仮病院**を建設しました。しかし同年9月、近隣からの出火により、業績もあがらないうちに全焼してしまっただけです。

2 1872年 7月

### 横浜中病院から横浜共立病院へ

仮病院焼失後、県令大江卓はしきりに病院の必要性を説き、焼失した仮病院の代替施設として太田町六丁目に**横浜中病院**を設立しました。しかし彼は、これだけでは満足せず、さらに病院建設費の寄付を募り、1873年12月、ついに野毛山語学所修文館跡地に移転、**横浜共立病院**と改称したのでした。

3 1874年 12月

### 十全医院

横浜共立病院開設から2か月余り経った頃には、内容外観ともに充実整備され、名実ともに模範的病院となったようです。その後、神奈川県に移管され、**県立十全医院**となり、さらに1891年4月に横浜市に移管され、**横浜市十全医院**に改称されました。

1923年9月1日の関東大震災で全壊消失してしまいますが、震災から3日後には隣接の平沼久三郎氏の邸宅を借りて仮診療を始め、その後もバラック資材を用いて病舎を作るなど、復興に向けて一步一步前進します。そうして震災から1年にも満たない1924年6月、南吉田町（現南区浦舟）に移転、再興を遂げました。

## 関東大震災の惨状と被害

未曾有の震災により、十全医院は最初の激震で各建物の全ての天井が崩落、廊下一帯の窓ガラスも破損し、その惨状は筆舌に尽くし難いものだったそうです。

にも拘わらず、当日の入院患者129名、職員150名余りは、僅かに3名が軽傷を負ったのみであり、日頃の訓練が功を奏したと言えます。

## 天然痘ワクチン接種を一手に担う

天然痘の流行により種痘（天然痘ワクチン接種）業務のすべてを十全医院に移管、**県下の種痘本局**として接種済みの者には、その証明書を交付したそうです。

これは**日本における種痘証発行のはじめ**であると言われており、現代のコロナウイルスワクチン接種にも通ずるものがあります。



### 実はこれ以前にも・・・？

実は1876年に、シモンズを教頭にして、横浜に医学校を創ろうという計画があったようです。

医学専門学校設立時の横浜市長は、医科大学を創設し、将来的には国に移管して横浜帝国大学を実現する構想も持っており、横浜にとって“医学”がいかに重要視されていたかが窺えます。

4  
1944年 4月

#### 横浜市立医学専門学校／同附属十全病院

日華事変の発生を契機に、海外留学が困難な状態になると、十全医院への就職希望者が激減してしまいます。海外留学に変わる魅力的な方策を模索するうちに、**研究室設立↓医学教育機関設置の方向へと発展**していきました。

当初は医科大学開設の思惑がありました。太平洋戦争への突入により、軍医の養成が急務となったことで、文部省は医学専門学校の新設を促進する方針を取ります。

こうして、1944年4月、南区井土ヶ谷下町に**横浜市立医学専門学校**が設立され、病院は**横浜市立医学専門学校附属十全病院**に改称しました。同年10月には浦舟校舎に移転しています。

5  
1949年 4月

#### 横浜医科大学／横浜医科大学病院

1946年3月の「医学教育刷新改善要領」により、医学教育

育は大学において行うことが示されました。医学専門学校は旧

制医科大学ないし医学部に昇格したあと新制大学に転換する例が多く、横浜市立医学専門学校もまずは医科大学昇格の道を選択しました。こうして**横浜医科大学**が誕生し、時を同じくして病院も**横浜医科大学病院**に改称します。

6  
1952年 4月

#### 横浜市立大学医学部／横浜市立大学病院／横浜市立大学医学部病院／横浜市立大学附属病院

1949年2月、医学部と商学部の設置認可が下り、同年6月1日に新制大学が発足しました。

医学部は、全学年の充足をもって1952年4月に**横浜市立大学医学部**となり、横浜医科大学病院は**横浜市立大学病院**を併称。その後、**横浜市立大学医学部病院↓横浜市立大学附属病院**と改称を経て、現在に至ります。

金沢区福浦には、1987年に移転しました。

### 2つの附属病院の謎

福浦キャンパス完成とともに、新附属病院の建設が進められる中、浦舟町の伝統ある病院の所属について横浜市当局と折衝を重ねた結果、1985年12月、横浜市立大学附属病院として残すことが決まりました。



#### 参考文献

- 横浜市立大学60年史編集委員会編『横浜市立大学六十年史』横浜市立大学創立60周年記念事業実行委員会、1991年
- 三杉和章編集「横浜と医学の歴史」横浜市立大学一般教育委員会、1997年
- 横浜市立大学医学部病院「編」『100年のあゆみ・創立100周年記念』横浜市立大学医学部病院、1972年
- 荒井保男「日本近代医学の黎明―横浜医療事始め」中央公論新社、2011年
- 横浜市十全醫院「編」『横浜市十全醫院要覧・附横浜同愛記念病院』横浜市十全醫院、1933年

# 市大の源流

## 3

### 十全看護婦養成所から横浜市立大学へ

今では普通になっている4年制の医学部看護学科が本学に開設されたのは2005年です。

実は本学には看護師（以前は看護婦）養成に関して非常に長い歴史があることをご存じでしょうか？

医学部看護学科の起源となる学校が創設されたのは1898年、当時の校名は横浜市立十全看護婦養成所（当初の修業年数は3か



第1看護科 1期生

年。その後、2か年に変更）でした。

当時の看護教育は医師にゆだねられており、病院における看護婦の業務は診療の補助が主だったそうです。

戦後、看護婦制度の大改革に基づき、横浜市としても社会のニーズに応え、病院の附属でない横浜市独自の看護学校を設立したいとの思いから、1952年に横浜市立看護婦養成所を看護婦科定員15名、准看護婦科定員30名で開校しました（翌年に看護婦科は横浜市立高等看護学院に、准看護婦科は横浜市立准看護学院と改称）。

看護業務も、医師の診療介助が主な業務だったのが、看護独自の機能である患者

の日常生活の援助に目を向けるようになりました。

1971年には3年課程の第1看護科と2年課程の第2看護科を持つ横浜市立大学高等看護学校となり、閉校までに3000人以上の看護婦を送り出しました。

その後、医療保健水準の急激な進歩、高齢化社会の到来や生活環境の多様化などにより、チーム医療の発展と高度化、それに対応できる高い専門性と豊かな人間性をもつ看護師養成の必要が高まり、1995年には横浜市立大学看護短期大学部が開校されました。

現在では、大学院を持つ高度な看護職を育成する教育機関となっています。



現在の看護教育研究棟



1963年頃

#### 参考文献

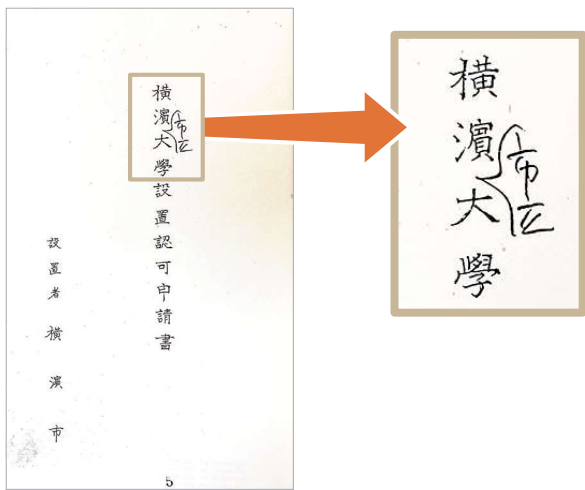
・三杉和章編集「横浜と医学の歴史」横浜市立大学一般教育委員会、1997年

・横浜市立大学医学部付属高等看護学院閉校記念誌編集委員会編『横浜市立大学医学部付属高等看護学院閉校記念誌』横浜市立大学医学部付属高等看護学院、1997年

・浅川明子編『横浜市立大学看護短期大学部10周年記念誌』公立大学法人横浜市立大学看護短期大学部、2007年

・横浜市立大学医学部看護学科Webサイト「沿革」<https://www.yokohama-cu.ac.jp/nur/index.html>（2022年5月18日閲覧）

# 「横浜大学」争奪戦！



1949年、横浜にある国立・市立・私立の3つの学校が、新学制に基づき大学設置認可申請を行いました。ところが、新しい大学の名称を「横浜大学」として申請したのです。文部省（今の文部科学省）は、3つの学校に、自分たちで

調整するよう指示しました。この調整は、非常に難航します。私立の学校はいち早く「横浜大学」を諦め、「神奈川大学」として再申請することにしました。しかし残った2校はどちらもなかなか譲りません。すると、国立の学校の学長から「双方『横浜大学』を諦め

て、それぞれ『国立』『市立』を名前に含めたらどうだろう」という折衷案が示されました。国立の学校は、名称を「横浜国立大学」と変更し、再申請しました。一度は「名称に国立を含めるのは好ましくない」として差し戻されそうになりましたが、先

述の学長が市立の学校との関係を考慮して説得し、了承を得たそうです。

一方市立の学校は「市立

横浜大学」と名称変更し、

再申請しました。ところが

文部省からは、他の公立大

学と合わせて「市立大学」

の名称にせよ、と差し戻さ

れてしまいます。最終的に

は市立の学校は「横浜市立

大学」という名前を使用す

ることになりました。

本学の「横浜大学」とい

う名称へのこだわりは、再

申請の名称が「市立『横浜

大学』だったことからも

読み取れます。そしてその

こだわりの強さは、『横浜

国立大学工学部五十年史』

（P・313）で「市立は

当然のことながら強硬な態

度」と表現されています。

（でも、納得できますよね。）

## 参考文献

- ・ 横浜市立大学60年史編集委員会編 『横浜市立大学六十年史』 横浜市立大学創立60周年記念事業実行委員会、1991年
- ・ 横浜国立大学工学部編 『横浜国立大学工学部五十年史』 田口武一、1973年 [https://es100anniv.ynu.ac.jp/pdf/booklet\\_50years\\_history.pdf](https://es100anniv.ynu.ac.jp/pdf/booklet_50years_history.pdf) (2022年8月9日閲覧)
- ・ 横浜市立大学設置認可申請書 私製、「194年」
- ・ 神奈川大学百年史編纂委員会専門委員会、神奈川大学資料編纂室編集 『神奈川大学90年のあゆみ』 神奈川大学、2019年

